

徐放性製剤の粉碎投与

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

No.158 2020年1月

徐放性製剤の粉碎投与

徐放性製剤を粉碎して投与した事例が4件報告されています(集計期間:2014年1月1日~2019年11月30日)。この情報は、第53回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

徐放性製剤を粉碎して投与したことにより体内に有効成分が急速に吸収され、患者に影響があった事例が報告されています。

徐放性製剤 (薬効分類)	患者への影響	件数	徐放性製剤のイメージ
ニフェジピンCa錠 (持続性Ca拮抗薬/ 高血圧・狭心症治療薬)	血圧低下	2	速放性 徐放性
ケアロードLA錠 (経口プロスタサイクリン(PGI ₂) 選択性徐放性製剤)	血圧低下	1	徐放性
オキシコンチン錠 (持続性経痛薬治療薬)	意識レベルの低下 呼吸状態の悪化	1	徐放性顆粒

◆徐放性製剤は、有効成分の放出の速度、時間、部位が調節された製剤です。
◆薬剤名のL(long), LA(long acting), R(retard), SR(sustained release), CR(controlled release)などは徐放性を示しています。
◆報告された事例は、経鼻栄養チューブや留置カテーテルから薬液を投与した事例です。

図 医療安全情報[No. 158]「徐放性製剤の粉碎投与」 2020. 1. 15

http://www.med-safe.jp/pdf/med-safe_158.pdf

この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業 第53回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成され、徐放性製剤を粉碎して投与した事例である。(http://www.med-safe.jp/pdf/report_2018_1_T002.pdf) 各事例は、錠剤をそのまま服用するのは難しい状況であり、アクシデントが生じた各職種の背景要因として薬剤師は、事前の関与が難しい状況で投与が行われ、誤った投与方法を防ぐことが出来なかった。また、医師および看護師は、徐放性製剤の特性を知らないまま処方や投与をしていた。